

会 長	署 長

令和 6 年度 第 1 回 周南 警察 署 協 議 会 会 議 録

開 催 日 時	令和 6 年 6 月 2 8 日 (金) 午後 3 時 3 0 分 から 午後 4 時 5 分 まで の 間	
開 催 場 所	周南市 大字 徳山 5 6 3 2 番 地 の 4 周南警察署 4 階 講 堂	
出 席 者	会 員	近森会長、青木委員、田中委員、大庭委員、谷口委員、友田委員、 西村委員、藤井委員、湊委員 計 9 名
	警察署	署長、副署長、主幹、警務課長、留置管理課長、生活安全課長 地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長、交通課長、警備課長 警務課会務係 計 1 3 名
議 題	1 業務説明 2 警察職員採用募集活動の推進	

1 署長挨拶

周南警察署は、春の人事異動により幹部の大半が変わり、新たな体制で3か月余りが経過し、日夜、市民の皆様の安全・安心を守るため、署員一丸となって警察活動に取り組んでいる。

管内の詳細な管内情勢はのちほど詳しく説明するが、未だうそ電話詐欺をはじめ SNS を利用した投資詐欺やロマンス詐欺といった新たな手口の犯罪が増加している。

また、闇バイトにより実行行為者を募り、窃盗や強盗さらには殺人をも辞さずに実行するといった新たな犯罪も出現するなど依然として予断を許さない状況である。

本日の諮問事項は、受験希望者が減少の一途たどっており県警察として喫緊の課題ともいえる「警察職員採用募集活動の推進」についてであり、委員の皆様には諮問をいただきたいと思う。

テレビ等の報道によると、園児や小学生に対する将来のなりたい職業に関するアンケートでは、必ずと言っていいほど上位に入っている警察官が、昨年の競争倍率が過去最低の 2. 1 倍にまで減少するなど極めて憂慮すべき状況にある。

県警察としては、1 人でも多くの優秀な人材を確保するため、様々な施策に取り組んでいるが、やはり警察だけの力では限界もあり、民間企業での取り組みなどを参考

に、7月5日から始まる今年度2回目の採用募集活動に活かしていければと思っているので、本日は闊達かつ忌憚のないご意見を願います。

2 会長挨拶

新年度を迎え、周南警察署では署長以下多くの幹部の皆さんが異動となり、新たな顔ぶれでの初の開催となる。

この度の協議会を通じて、委員の皆様方と幹部の皆さまの顔の見える関係をつくり忌憚のない意見が交わせる会となり、より良い周南警察署の運営に寄与できることを願っている。

本日は「警察職員採用募集活動」というテーマで検討協議を行うこととなっている。

山口県は大学生の6割が県外に就職するというような報道もあったが、聞いたところによると、警察職員の受験希望者が年々減ってきているとのことである。

県警察としても現状に危機感を抱き、若い人たちに選んでもらうために様々な取組をされているとのことだが、警察組織の中での発想には限界があるとのことである。

会員の皆様には、県警察がいかに採用募集活動に取り組むべきか、ご意見をいただきたいと思う。民間企業の採用方法など、何でも構わないので、忌憚のない発言を願います。

3 業務説明

業務推進状況について、以下の項目に沿って説明した。

- (1) 刑法犯の認知・検挙状況
- (2) ストーカー、配偶者暴力事案（DV）等への対応状況
- (3) 重要犯罪等の検挙対策の推進状況
- (4) うそ電話詐欺・SNS型投資・ロマンス詐欺の認知検挙状況
- (5) 暴力団犯罪検挙状況
- (6) 薬物事犯検挙状況
- (7) 110番通報の受理状況
- (8) 交通死亡事故抑止総合対策の推進状況
- (9) 警察安全相談の受理状況
- (10) 遺失物業務の取扱状況

4 出席者自己紹介

省略

5 諮問事項説明

「警察職員採用募集活動の推進」について、警務課長が資料を基に説明した。

6 業務説明に係る協議・検討

(会員)

SNS型投資・ロマンス詐欺について説明があった。

実際に周南署で行われている水際対策等を教えていただきたい。

また、警察署に相談があった被害者はどのぐらいの年齢層の方々が被害に遭われているのか教えていただきたい。

(生活安全課長)

水際対策は金融機関には被害が増えている状況を説明し防犯情報などを提供して協力をお願いしている。

また、ロマンス詐欺や投資型詐欺、暗号資産の場合は、コンビニエンスストアでは電子マネーを取り扱っているので、従業員の方に声掛けを積極的にするようお願いしている。

相談の年齢層は、一般的に40～50歳の方が非常に多い。

特にSNS型投資詐欺の被害者は50歳代くらいの男性が多い。

ロマンス詐欺については40歳代よりちょっと若い女性が被害にあっているという実態があるので、相談はその程度の年代となる。

被害防止広報は各種機会を捉えて、様々な会議等で広報しており、一件でも減らす被害防止対策に取り組んでいる。

(署長)

水際対策はコンビニや金融機関等を対象にした被害防止の訓練をこれまで実施しており、これからも推進していく。

また、実際にコンビニエンスストアの従業員の方が止めたことが新聞に出ているが私が赴任してこの3か月の間に何度も水際で止めてもらった事例がある。

積極的に課長の方から表彰を促しているが、報道に出るのはちょっと勘弁して欲しいという方がかなり多く、感謝状は渡しているが報道発表はしていない事例も数件ある。

(会員)

今年度に入り不審者情報というのが学校の安心メールから各家庭に配信されているが、結構なタイムラグが実際に発生している。

子供が帰った後、メールが届いた、確認したというケースもあって、その辺りはリアルタイムな情報を流せと学校教育界にもお願いしている。

そういった情報が警察に入った場合というのは、発生して例えば午前中に発生したら午前中はずっとパトロールするのか、それとも夕方までパトロールを続けるのか。

(生活安全課長)

一般的に発生した場合一週間程度、再び発生するかもしれないとの考えで、警戒をしている。

また、学校側とも情報共有を図っている。

防犯カメラのある場所では行為者の人相着衣、車を特定しやすいので、認知した際は事案を繰り返し発生させないよう対策を講じている。

7 諮問事項に係る協議・検討

(会長)

山口県警察ではホームページ、YouTube、SNS等を活用し様々な方策で警察官や警察職員の採用を行っている。

山口県の大学生の6割が県外に就職するとの報道があり、事実、警察職員の受験希

望者は年々減ってきている。

民間の採用方法など何でも構わないので、一般人の視点観点で意見をお願いします。

(会員)

参考に配布されている採用案内のパンフレットが手元にあるが、配布先の対象とどれぐらいの数を教えて欲しい。

(警務課長)

当署では管内にある高校、大学にパンフレットを持参の上、案内をしている。

県警全体でどれぐらいの部数を印刷しているかはわからないが、当署には200部程度の配分があり、なくなり次第、警察本部に追加で配分を要望する。

学校以外には採用説明会であるY Pセミナーや、先般、消防、自衛隊、海保と一緒にいった四機関合同説明会の参加者に配布し、警察の業務説明に使っている。

(会員)

本日は職業紹介の媒体を参考資料として二つ持ってきた。

これらに掲載するには費用がかかるので検討は必要であるが参考にして欲しい。

まず「ネクスタ」という山口市のきららマーケティングという会社が発行しているものがある。

もう一つの「周南学生新聞」は周南市の新周南新聞社が発行している。

これらは高校の生徒に直接配布されている媒体で、Webと連動してやっているので、生徒だけでなくそれ以外の人達にもPR範囲が広がるのではないかと思う。

まず「ネクスタ」が山口県の全高校に無料配布し、先生から生徒に直接配布され、大学にもいくつか配布している。

春号と夏号があって、配布対象となる生徒が、春号が高校2年生の生徒が対象で、学校からの希望があれば全学年の生徒分を用意すると言っている。

夏号は就職希望の3年生のみということである。

「周南学生新聞」は年6回発行され、周南、下松、光市の全高校に無料配布されている。

南陽工業高校、下松工業高校、聖光高校、桜ヶ丘高校、華陵高校、熊毛北高校、徳山高専には、全学年の生徒に配布し、他の高校は各クラス5部程度配布している。

周南新聞社としては、できれば他校の生徒にも全生徒配布することを目指しているそうだ。

先ほどアンケートを見せてもらったが、採用時に不安を感じた点についても教えてもらった。私も学校訪問をするが、訪問先の先生によく言われるのが、「最近の生徒は職業観ではなく、勤労観を重要視する生徒が多い」とのこと、給与条件であったり、職場の雰囲気などの職場環境、あとは自宅通勤が可能かどうか、交替制勤務がないかなどを聞くということである。

警察の業務は、交替制勤務が必ずあるとのことなので、そのあたりは民間企業の勤務条件とは違うと思うが、仕事に対する不安を払拭する一助として、生徒さんに直接こういった媒体を活用して警察採用案内に活用し、キャリアパスや不安を解消することをかいつまんで載せ、多くの生徒に届く形を検討してみたいかと思う。

自衛隊がすでに利用しているので、掲載効果があるかないかを自衛隊に聞いてみると良いのではないかと思う。

(会員)

採用案内のことでお聞きしたい。
パンフレットは単体で配っているのか。

(警務課長)

募集期間になると受験案内をつけての配布になる。
パンフレットは採用募集期間以外の期間であればこれ単体の配布となる。

(会員)

これは採用案内と記載しているが、採用に関しては一切記載がなく、警察官の業務内容等が記載してあって、採用試験を受験したいと思った時には一番後ろにある試験についての問い合わせ先にアクセスするようになっている。

これでは希望者にとってはすごくハードルが高いと思う。

受けたいと思って試験情報を仕入れようと思っても、これを見ただけでは採用試験の日程がわからないのではないか。

(警務課長)

県の人事委員会が出している年間スケジュール的なものは採用募集期間でなくても一緒に配布することは可能だが、パンフレットは主に受験票等を添付して配布しているので、そのあたりの改善が可能かというのは意見として上げたいと思う。

(会員)

先ほどのスライド、資料で言えば5ページの下のスライドだが、受験者に関することだが、高校生に関しては卒業見込みと既卒の人がいるということだが？

(警務課長)

これは、令和6年度新設となっているところは、警察官Bの区分になるが、すでに高校を卒業された方については1回目と2回目の両方を受験することができる。

ただ、在学中の高校生は政府のルールで7月1日以降が解禁日となるので、高校在学中の方については警察官Bは2回目しか受けられないという区分となる。

(会員)

実際に聞きたかったのは大学卒業後とかあるいは短大、高専卒業というのは見込み者しか受けられないということか。

(警務課長)

B区分の1回目は短大、高専、専門学校はすでに卒業された方、高校についてもすでに卒業された方、既卒者については受検可能である。

(会員)

わかった。

(会員)

警察の制度的なものはよくわからないが、例えば地域限定職というようなものはあるのか？

「実は周南市で働きたいけど転勤があるので…」と敬遠されているのもあるのではないか。郵便局なら、例えば周南、下松、防府あたりで勤務し、他の地域への転勤はないが、給料が安いという制度がある。

同じ地域に長くとどまることでいろんな弊害があることはわかるが、そういった働き方も加えたほうがいいのか。

パンフレットは、主に学校関係に配られると思うが、内容は別にしてこういった警察官採用のパンフレットを市内の各金融機関に置くと、防犯上も結構、警察官来ているんだと防犯意識も高まるし、客などに持って帰ってもらい、子供に受験を勧めてもらえるかもしれないので、パンフレットを置くエリアをもって広めてみるのはどうか。

あとは、ちょっと変なことを言うようだが、学校部活動廃止に伴って中学校、地域活動が始まる中、周南警察署員が勤務を終えた後で、中学生に柔道、剣道を教えることによって、さらに警察の魅力を広めていけば、警察官採用にもつながるし、こちらとしてもありがたいと思うのでよろしく願います。

(署長)

逆に質問する。

先ほど説明にあったように、山口県警の受験倍率は2.1倍と由々しき実態であり、全国でも下から二番目に低いと聞いている。

某県警のように非違事案等が多発して連日報道されているような県警には入りたくないと思うのかもしれないが、正直なところ、皆様の目から見て山口県警も魅力がないと思われているのかを聞いてみたい。

例えば皆さんに適齢期の子供さんがいて、県警を受けるのはやめた方がいいと止めるようなことがあるのか、そのあたりを差支えない範囲で意見を聞かせて欲しい。

(会長)

山口県内の高校を私と人事担当の者で大体60校ぐらい訪問している。

先生方と話をする中で、警察官の仕事は私たちが得ている情報からすると全然人気がない職業ではない。

学校の規模にもよるが、郊外の高校で3年生の生徒が30人とか50人ぐらいしかない高校だと、就職を希望される生徒さんが10人から20人いる中で、必ず警察官になりたいという生徒が1人か2人はいる。

今回、警務課長から採用をめぐる状況の説明を聞いたときに少し意外に感じた。

署長が今言われたことは、私が得ている情報とちょっと違うと思うが、とはいえ実際の応募人数が少なくなっているとのことなので、何かしらのテコ入れが必要なのかとは思ふ。

(会員)

先日、6月15日の地域学習で小学校にパトカーを派遣してもらった。

その時もそうだし、これから地区で祭りが11月ぐらいにあるが、も毎年パトカーに来てもらって子供たちが乗るが、子供はパトカーに乗るとすごく喜ぶ。

小学校の子供たちも社会見学などで消防署や警察署の見学をしても、消防車に乗るとかパトカーに乗るとすごく喜ぶが、では、警察官になりたいかと言うと、そうとは思わないようだ。

大人になるにつれてパトカーに乗るだけが警察官じゃないとか、警察官はいろいろな危険なこともしないといけない、汚れたこともしないといけないなどを知り、成長するにつれ、やっぱり敬遠されているのかなと思う。

警察官だけでなく教員も本当になり手がなくてすごく困っていて、年をとっても駆り出されるというよう状態である。それは警察官と一緒に、たぶん若い人は、例え

ば民間企業に入って自分でこういう研究をしたい、こういう風に働いていきたいというのが強いように思う。教員もきついで、子供がすごく好きで仕方ないという方も稀にいるからなんとかやれている。

幼い頃、警察官のお父さんの姿を見て自分が警察官になってこういう風になりたいと思う人が何人かいると思うが、そういう限られた人しか夢がないのかなと思う。

教員もそうだが、いかにしてその職業が凄く良いんだというのを子供の頃からずっと植え付けるにはどうしたらいいのかというところが一番の課題と思う。

(会員)

私の甥っ子が幼い頃、警察官になりたいと言っていた。

今、高校2年生になったが、今は全然警察官になりたいとは言わなくなり、パティシエになりたいと本人は言っている。どこで変わったのか。

やっぱり小学生の低学年の時は、「警察官、警察官」と言っていたが、やっぱり大きくなるにつれてそういうことは言わなくなり、就職を控える年頃になって聞いてみたら、何となく教員も警察官も志を持っている人がなる職業というイメージを持っている。

民間企業は就職活動する上でいろんな業種が候補に上がってくると思うが、警察官は、子供の時からなりたいと思っている人がなる職業というのがあるのではないかという印象がある。

先ほどいろいろな取り組みの説明を聞いたが、やっぱり興味のある人に来てもらうのが前提なので、興味のない人にも来てもらえるようにしていかないと、これからはなかなか難しいのではないかと感じる。

私は運送業界の団体にいるが、今、運送業界もトラックドライバーの不足がもの凄く言われ、若手採用をどうやっていくかという中で、高校で就職を控えた人を対象に出前授業、こちらのほうから学校に出向いて運送業の重要性だったり、こういう職業ですよとか、実際にトラックドライバーに何でドライバーを選んだのか、勤務環境を実際の声を高校生に聞いてもらう取り組みをし、職業選択の一つに入れてもらえるように一生懸命働きかけている。

子供の頃に警察官になりたいって言われていても、親としても適齢期の子供に急に警察官になりたいと言われたら「あなた、いままでそんなこと言ってなかったでしょ」という抵抗感もあるのかなと思う。

警察官という職業がもう少し敷居が低くなっていいのかわからないが、その敷居の高さが何となく高校生がいきなり警察に就職しますと言ったら、親がちょっとびっくりするようなどころがあるのかなと思うので、受験しやすいように敷居を下げるといふ訳ではないが、一般企業を受けるのと同じように「ああそうなんだ」と言えるくらいになる方がいいのかなと思う

市民を守る職業なので敷居を下げるのは難しいのかなと思うが。

(会員)

求人が高専が入っているので、高専の話をさせてもらう。

実は山口県は、徳山高専、宇部高専、大島商船があって、実は全国でも三高専あるというのは山口県と福岡県だけである。

高専の卒業生の多い県ではあるが、たぶんその中で警察官を目指してる学生はほと

んどゼロに近いのではないかなと思う。

やはりエンジニアになりたい、あるいは船員になりたいという目的を持って高専に入学しているので、今、20倍ぐらい求人が来ている状況の中で、警察官を目指すというのはゼロかなと思っている。

ただ、今日の説明を聞いて「オっ」と思ったのはサイバー犯罪捜査官、これに関して言えば本校は情報電子工学科の学生の中には、応用情報の資格を持っている学生もいるので、そういう学生にピンポイントで働きかけるといったことをすれば、希望する学生も出てくるのではないかなと思う。

これは本校だけではなく、高校も同じではないかなと思うが、たぶんゼロとイチの差というのはすごく大きく、一人でも入れば次が続く。

本校でも一度就職してから警察官になったという学生が卒業生の中にはいるが、そのような学生は、在校生からすると全然知らない、関係ない人ということになるが、直近の先輩や、少し上の先輩が入っていると、就職の対象になると思う。

いかにゼロからイチにするかが高専だけでなく、高校やほかの学校でも大切なのではないかなと思う。

(会員)

私は会社で採用部門には全く関係ないが、当社でも高卒の採用試験は9月に行い、それとは別に特別採用といって今年も5月くらいに募集をかけて8月1日付けで特別採用という方が入社したというのはある。

当社には臨時で採用とかキャリア採用があるが、サイバーセキュリティーというのはキャリアを積んだ優秀な人を引っ張ってこられるのなら、警察でもそういう採用の方法があれば、少しでも増えるかなと思う。

我々の時は、終身雇用というか入社してしまえば定年までいるのが普通だったが、今の若い子はずっといい条件がある会社を見つけるともう、全然関係ない。

昔がいいか悪いかどうかわからないが、当社にはいれば最後まで確実にというのが、私が入社した当時の考えだったが、最近の若い子たちはそんなこと関係なく、いい条件の所にスパッと行くっていうのもあるが、離職というところは特に問題になっていないと思う。

(署長)

離職に関しては、採用の比率からしてそんなには多くないと思われる。

中途採用などは警察学校に全員が入らないといけない。例えば中途の時期に1人、2人のみ採用ということができない。

どうしても思っていたのとは違うということで、警察学校の間、あるいは警察署に出たから多少の離職はあるが、そこまでは多くはない。

(会員)

大変難しい問題だと思う。

警察官になるには志がある人になってもらいたいし、なってもらわないと困ると基本的に思っている。垣根を少し下げてというか、採用のありかたを検討しなければならないの時期になっているのかなと思う。

そうしないと、入ってもいいかなという考えが増えない。

例えば、柔道、剣道が必須なのか、そのあたりがネックになって敬遠する者もいる

かもしれない。

他のスポーツで良かったりする場合もあるかもしれないし、職場の雰囲気や環境が若い人には一番気になるのではないか。

家族的な雰囲気というか、この辺を醸し出してPRする必要があるのではないか。どうしても先輩や後輩の関係が厳しいというイメージがどうしてもあるのではないか。

そのあたりを民間と同じとは言えないが、厳しいところは厳しくないといけませんが、雰囲気は家庭的な雰囲気というようなものを打ち出せるようなPRをやっていくことによって、警察官になってもいいかなと思わせ、なったら厳しく指導しないと現代の若い子はなかなか難しいのかなと思う。

入ったらこのような点がいいよ、というPRをしていくことが必要だと思う。

8 交通課長説明

周南地区における即日交付施設の拡充の今後の免許行政について

9 配布資料

令和6年度第1回周南警察署協議会資料

10 その他

次回会議の日程は、別途調整することとした。